

インターネットトラブル事例集を活用した授業実践

～生徒の実態に合わせた展開と工夫～

佐々木 良輔（相模原市立田名中学校）

概要：生徒の生活実態として今や、スマートフォンやタブレットPC、パソコンだけではなく、ゲーム機等でも、いつでもどこでも簡単にインターネットを利用できる環境にある。その便利さの反面でトラブルも招きやすい中、情報モラル教育の意義はより一層大きいと痛感している。学校あるいは学年・学級の実態により課題は多様化する中で、少しでも生徒自身が関心をもってその課題と向き合い、考え、その先の生活に生かしていけるような指導ができないかと考えた。本実践では、総務省発行「インターネットトラブル事例集」を活用した授業での取り組みを報告する。

キーワード：インターネットトラブル事例集、情報モラル、関心

1 はじめに

生徒を取り巻く生活環境の情報化は大きく発展、そして複雑化している。中学生の携帯電話・スマートフォン等の所持率は高くなり、使用頻度も増加するだけでなく、使用している機器もタブレットPC等を含め、多様化してきているのが現状である。

これらの機器を用いて、生徒は簡単にインターネットに接続、膨大な情報の受信、発信ができ、幅広い他者との交流を容易に行っている。ソーシャルメディアの利用率は、全国的に10代で約8割近くに上っており、大きく増加していることが分かる。

このような環境の変化は、様々なトラブルの温床にもなっている。先述の利用者増加やゲーム機等からインターネットを介して遊ぶオンラインゲーム（アプリ）の流行により、関連するトラブルや問題行動を経験している生徒は少ないと思われる。

これらのことから、情報モラル教育の推進は不可欠であると考え。特に個人が自由にインターネットを利用できる分、個人情報の管理等の情報セキュリティや情報モラルについては、生徒一人ひとりが意識を持って向き合わなければならない。

そこで、生徒が情報モラルについて関心を高められるよう、総務省発行「インターネットトラブル事例集」を活用した授業に取り組んだ。

2 実践の流れ

（1）授業実践の対象および時期

授業実践は、平成28年度より、2年間を通して第2学年と第3学年で実施した。

1年目：平成28年11月 第2学年

2年目：平成29年 7月 第3学年

（2）授業の進め方

①アンケート調査（事前調査）の実施

授業を行う前に、事前に題材に沿ったアンケート調査を対象学級で行った。アンケートの様式は総務省から出されているものを基本として作成し、無記名（性別のみ記入）で実施した。

②導入

アンケート結果を表やグラフ化し、授業の導入で公開、解説することで学級の今の実態を伝える資料とした。

③インターネットトラブル事例の紹介

本事例集から題材を選択した。事例を資料から提示し、そのトラブルの問題点から解決に向けてグループワークを行った。

④グループワーク（まとめ）

ワークシートは一部変更して使用した。まず、事例について個人で考えさせ、問題点を洗い出すとともに、原因となるインターネットの特性について意見を集めた。その後グループになり、問題点に対してどう対処をしていくべきかについて話し合った。

(3)事例内容(平成28年11月 第2学年)

本事例集6-2「掲示板などのへの書き込みをきっかけとした暴力行為」を取り扱った。

SNS上での書き込みによる人間関係のトラブルが実際に学年で問題になったこともあり、掲示板への書き込みをきっかけとしたトラブル事例を題材として扱った。

(4)事例内容(平成29年 7月 第3学年)

本事例集7「ソーシャルゲームなどの中毒性がもたらす悪影響」を取り扱った。

全国学力・学習状況調査の回答結果より、本校は携帯電話やゲーム等の利用時間が全国平均を上回る結果が見られた。これを踏まえ、第3学年ではインターネットの利用による生活習慣への影響を考える授業展開を行った。

3 実践の成果

授業導入で用いた、事前調査の公開により、学級全体の現状や生徒一人ひとりの意識について知ることができる良い資料となった。インターネットの利用状況や、どんな情報機器を利用しているかなど、数値化してグラフで示すことで視覚的に分かりやすく伝えることができた。

また、本事例集のトラブル事例を示すことで、具体的な事案をもとに生徒は話し合いを進め、率直な意見を出し合うことができた。

さらに、グループワークでは、班員の意見を共有することができ、自分の意見だけでなく、新しい考え方にも触れることで話し合いが活発に行われた。それは、様々な生徒が実体験を踏まえて、意見を書いたり発言したりすることができたからだと思われる。

まとめでは、各テーマに対して、今後どのようなことに留意していくべきかについて、自分自身のことを照らし合わせてルールを決めたり、これからの対策を考えたりしながら、学びを深めていくことができた。

これらの実践を踏まえて、情報モラル教育の実施に向けては、興味、関心をもってテーマについて考え合うことが重要であり、次の2点について考えることが必要であると分かった。

- ・テーマを生徒の身近なものに掘り下げる
- ・実態に合ったトラブル事例の選定やグループワークを工夫すること

4 考察

本実践では、生徒が情報モラルについて関心を高められるよう、本事例集を活用して授業に取り組んだ。

事前調査の結果は、テキスト内で収まっていた情報モラルに関する「問題」を、身近な生徒の「話題」として認識でき、実体験につなげることができたと考える。それにより、個々が参加しやすくなり、活発な意見交換につながったと思われる。

また、個人からグループへと意見交換を広げる展開により、問題に対し、自分でよく考えてから他者と共有ができたことで、多くの意見交流ができた結果を生んだと思われる。その交流が、今後ソーシャルメディアとどのように付き合い合わなくてはいけないかについて、一人ひとりが考える際の参考となり、また意見をまとめるためにも役に立った。

5 今後の課題

相模原市では、今年度市内全小中学校で系統的に情報モラル教育が行えるように「情報モラル『相模原』プラン」を元にした「情報モラルハンドブック2017」が配付されている。

今後は、本事例集の内容とリンクさせながら、このハンドブックも併用した活用方法を確立していくことで、より授業内容に幅を持たせたい。

また、今回は学年内での取り組みであったが、この実践により、生徒会の協力も得ながら情報モラル教育につながる活動（キャンペーン等）をすることで学校単位での取り組みに波及させていくこともできそうである。

情報モラル教育は、学校側だけでなく、家庭との連携も重要である。授業で話し合った内容や、自分たちで決めたルールなどを学級通信に掲載するなどして、保護者も一緒になって話し合う機会を設けられればと考えている。

参考文献

- 1) インターネットトラブル事例集
(総務省 平成28年度、平成29年度)
- 2) 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 (総務省 平成27年度)